彦三
小金
竹離節
四季の
歌
京山作
國丸画
上
巻
仙窟堂版
へ13
2483
3

特へ13
2483
3

彦三
小金文政七年甲申新鐫
全四冊 上編

雛節四季替歌

山東京山作
哥川国丸画
仙鶴堂上梓

○それハさて置きこれまで
かのあきんハ春ぬ
ゆ
ゆ
ゆ

つぼ
くるくるくる
ヒ
今ごろはけふの
坂の月見そのこころのいのめとつとめまする
てんでもあれ
ひく
ひさ
しが
京の福は神
ちょにいさ
業入のわうび
モシどんなばつもりと
こりをつけてくださいと
いろ〳〵ひとを
おりとうちうるづき
コレはとりとけにもがらうが
コレはとりとくらいわう

ちらやのれとうり
ぐ
するゆゑにそこ
ちゃ
ちの
ちらや
ゆも

つぎは「モシあるさハ毒抜きんでハござり
ますせわ〳〵と名をさされていぶ〳〵く
「いろにも毒抜ハやがぶら」てコレハ
名をもつてゞやぞ〳〵「そのコヤハけ
ちふきにトコロ毒ぬバろて押ひらき
○一ふそヤとり〳〵やづらしきゆきちぞさ
ゆめうとそろりゆうまて〳〵くぞんじ
ちく〳〵コレハ名ろコヤありてあつ
くぞりあくりあぶまのふちまつとちち〳〵

▲あさのよハちまひとりゆすくけまひ汲
まぶるやゆそ市めふゆきんとゆ〳〵
このちりくゆきぬ山ハ少〳〵ゆれどあたまハ
かの〳〵このあくりゆまと色ゆとさく
タくさ〳〵りうるうぞゆまちゆ
あげいめそ〳〵くゆ〳〵とゆに
ふそゆてさまぞ〳〵ふ〳〵
るふ〳〵りつぎは

秋乃巻

大黒

春風屋
春風屋
「サア
ぎりぜうに
うでをまくせ
春

冬の七巻
仙女香
一包五十もん

山東京山作

哥川國丸画

江戸ものしり　京傳　色事師の口上

▲さくらさくら　丸一包二文　みやこ土産

きさらぎのころ　ぬきをとる

目をわきまえる　はるのあさ

のべ三十年　ようやくいろはの

めうやくと　▲十二年　ようやくいろはの

一包三文　二下　水一のろを白くきろをろ

うばとしのわとこれはやうこそも一文

月のてりやあのぐるくるまとめと

▲ひとを一分　ようさんごきい　一包百文

しるやどのひとをもも一分　ゆて　浄瑠璃

▲京山自画　さん　劇　ものしり

▲京山　てんてく　玉手箱　巻文　一下

十文　白文　一下

骨董集

三編　京傳遺稿

近刻　京山補訂

女粧考

京山編

上古中古近古の風を考図を加へる書

傭筆

晋米齋正粒

四
五
茨
二
巻